



特集

このまちの「おもしろい」を、 みんなでカタチに

マーメイド、コミュニティカフェ、若者支援、ライター、農地継承、
地域スーパーの復活、宴、まちづくり支援、TOCHITO※、地域資源の発掘、
文化財保護、酒田舞娘、マンガ… 一見何のことかと思うかもしれませんが、
今、本市にいる地域おこし協力隊が取り組んでいる活動です。

今回は酒田をおもしろいまちにしたいという思いで、
日々活動に取り組む地域おこし協力隊について紹介します。

※移住者向け賃貸住宅と地域住民との交流拠点機能を持つ施設

☎ 地域みらい創生課関係人口創出係 ☎ 43-8321

皆様のご意見をお寄せください
【公開期間】8月20日(木)まで



Q

本市にいる協力隊はどこから来ているの？

A

北は北海道、南は福岡県から移住しています。本市では首都圏で開催される移住フェアや協力隊に関するイベントに参加し、酒田への移住を促進するPR活動を行っています。移住フェアをきっかけに酒田での協力隊活動に興味を持ってくれる方もいます。

Q

本市の協力隊は何人いるの？

A

令和8年7月1日現在、13人の協力隊が活動しています。本市では県内着任数NO.1を目指しています。



Q

どんな人が協力隊になれるの？

A

都市部から地方に移住することが要件の一つです。酒田にゆかりのない人はもちろん、本市出身で都市部に住んでいる人も協力隊になることができます。

Q

協力隊はどんなことをしているの？

A

行政や地域、民間事業者などが抱える課題のうち、公益性のある地域課題の解決をミッションとして取り組みます。

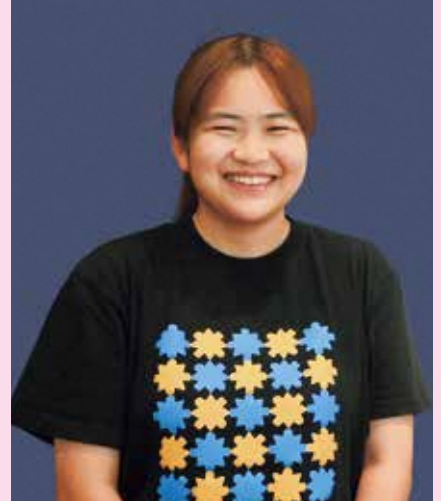
教えて！地域おこし協力隊とは？
地域おこし協力隊（以下、協力隊）とは地域の未来を応援するために都市部から地方へ移住して地域活性化に取り組む制度で、任期は原則1年～3年です。地域住民が求めることと協力隊のやりたいこと・できることのマッチングが、協力隊の可能性を最大限に広げるカギとなります。

地域課題の解決に協力隊と一緒に取り組みたい！
という地域の方や事業者向けの説明会を10月に開催します。詳しくは本紙10月号で改めてお知らせします。
◆個別相談も随時受け付け中です。



市街地

(一財)酒田コミュニティ財団



茨城県出身で東京都から1ターン。若者のプロジェクトを支援する助成プログラム、高校生を対象としたアントレプレナーシップ育成講座の実施などに取り組む。

盆踊りがつないだ挑戦

私が通った大学では、大学構内で実施される盆踊りを企画・運営する授業があり、その授業の担当教員が現在コミュニティ財団の代表理事として活動する齋藤知明さんでした。授業後、有志メンバーと飛島で盆踊りを開催する機会があり、初めて酒田市を訪れました。その後も中町モールでの盆踊り開催や地域おこし協力隊インターンで酒田と関わりを深める中で知明さんから声を掛けていただき「新しいことに挑戦したい」と思っ協力隊として活動することを決めました。

地域の熱い大人と見る景色

忘れられないコミュニティ財団の活動としては、40人を超える市内の高校生と酒田まつり宵祭りの企画・運営をしたことです。新しいことに取り組む高校生のキラキラした目と同じくらい印象的だったのが、地域の大人たちの熱量でした。大人が地域のために本気で祭りに向き合い、高校生のチャレンジを応援する姿勢は、高校生のやる気にも火をつけ「これは大人じゃなくて自分たちでやる」という行動の変化をもたらししていました。

地域の熱い大人たちの存在は、私自身の背中も押してくれ

笠原 志穂 隊員

のぞいてみてね!



▲酒田コミュニティ財団 Instagram



▲生活と宴

笠原さんは、若者の挑戦を支え魅力的で活気あるまちをつくる「(一財)酒田コミュニティ財団(以下、コミュニティ財団)」で令和7年10月から協力隊として活動しています。現在はコミュニティ財団の一員として、イベントの企画運営や広報などを担当しています。出身地である茨城県を離れ、縁もゆかりもなかった本市で20代という貴重な時間を過ごす今に迫りました。

ました。彼らに会わないまま「酒田には何もない」と感じていた若者がいたら、ぜひ会ってほしいです。私がつなぎ役になって「一歩踏み出せば違った景色と出会えるはずだよ」と声を掛けたいです。

協力隊というキャリア

地域の若者・大人の顔が見える距離感で活動できることがやりがいです。活動を通して生まれたつながりは将来の自分にとって貴重な財産になると思うし、高校生が挑戦する姿やそれを応援する大人の存在に刺激を受けながら、自分自身もスキルアップしていくことができる環境だと感じています。



▲(一財)酒田コミュニティ財団の皆さん

協力隊として、地域の若者の挑戦をもっと後押しできる存在でありたいです。広報を読んでいる皆さんからは、ぜひ一緒に地域を盛り上げてもらえたら嬉しいです!

協力隊を募集した経緯

加藤 私たちいろは蔵タウンマネジメント(株)は、いろは蔵を起点としたまちづくりの一環として、新井田川沿いに人の流れを生み出し、にぎわいを創出する事業を進めたいと思っています。

佐藤 協力隊をいろは蔵で検討したきっかけは、中心市街地に新たな人の流れを一緒に生み出してくれる人がほしいなど社内でも考えたことです。募集開始前には、市の担当者や業務内容や条件の調整を行い、着任後も連携してより良い活動環境を整えることに努めています。

決め手はまちの熱い人

高橋 生活共同組合「生活クラブ」が進めるまちづくりプロジェクトの説明会への参加が移住を考えるきっかけでした。酒田市には自分たちの力でまちをつくるという強い思いを持った人たちがいることを知り、酒田市で協力隊になることを決めました。

活動終了後に酒田市での起業を目指している私にとって、地域の人と関係性を築くことができる協力隊の制度は大きなキャリアになると考えています。

市街地

いろは蔵パーク



出身地である青森県から1ターン。中心市街地のまちづくり、主にエリアマネジメント活動を行いながら、6次産業化や山居倉庫周辺エリアの回遊性向上にも取り組む。

高橋達朗 隊員

たかはし たつろう
のぞいてみてね!



▲詳しい活動はこちら



▲いろは蔵パーク Instagram

市民や観光客でにぎわう「いろは蔵パーク(以下、いろは蔵)」旧酒田商業高等学校の跡地であり、かつては米蔵が建っていた場所に、地域の人たちの生活と人生を輝かせる場となることを願いつくられました。そんないろは蔵に着任した高橋達朗さんと、いろは蔵タウンマネジメント(株)の加藤さん・佐藤さんに、募集から着任そして活動を通して見えてきた景色について伺いました。

市民が主役になるまちを

高橋 今は、いろは蔵を拠点にたくさんの方の小さなコミュニティをつくり、市民一人一人が主役になるまちの土台づくりに取り組んでいます。

加藤 私は酒田で生まれ育ったので、当たり前になっている景色も多くて。外の視点を持った高橋さんと活動する中で、新たな発見があるなど感じます。私と同じように皆さんも新たな発見をすることで、当たり前前まの景色が変わるのかなと思いました。

佐藤 まちづくりって壮大に感じるけれど、実際は地道で小さな気付きの積み重ねですね。



▲今回お話を聞いた加藤さん(左)、佐藤さん(右)

高橋 皆さんからアイデアをもらったり、楽しくイベントに参加してもらったりすることが魅力的なまちづくりにつながると思うので、一緒ににぎわいを作る仲間になってほしいです!

松山地域

松嶺コミュニティセンター



酒田市出身。「ふじストア」跡地を利用し、小売りやコミュニティスペースとしての機能を持つ店舗の開業を地元事業者とともに目指す。

頭に浮かんだ地元・酒田

高校卒業後に地元企業に勤めたのち、東京都と愛知県で就職しました。家族も知り合いもない環境で、子育てをしながら働いていましたが「自然のあるところで子どもの成長を見守りたい」と思ったときに、酒田がほんやりと頭に浮かびました。そして名古屋市にある移住相談窓口を訪ねたら「地元に戻って何かに挑戦したいなら、地域おこし協力隊がすごく良いと思う」と教えてもらいました。

Uターンを後押ししたものの

酒田市の移住相談総合窓口がありとあらゆる不安に寄り添っ

てサポートしてくれたことと、協力隊について移住相談総合窓口で話を聞いてこれまでの仕事の経験を生かしつつ、熱い思いを持つ地域の方と一緒に活動ができそうだと感じたことが協力隊になる決め手になりました。あと、お試し移住を経て夫が「酒田に行こう」と言ってくれたことも背中を押してくれましたね。

協力隊として 地元を見つめる

地域の皆さんからとても優しく受け入れてもらっています。見かけたら声を掛けてくれたり、まだ幼い子どもを気に掛けてくれたり。協力隊の活動にも

さいとう 齋藤 麻依 隊員

のぞいて
みてね!



▲Instagram



▲at sakata
「移住相談
総合窓口」

長年にわたり住民の生活を支えていた商店「ふじストア」が閉店した松山地域では、新たな拠点づくりが求められています。このミッションに取り組むのが、今年3月に協力隊に着任した齋藤麻依さん。愛知県名古屋からUターンした齋藤さんは、現在、月1回のワークショップ開催を通して地域の方の声を聞きながら、新たな拠点に必要なことが何かを模索しています。



▲齋藤さんと松山地域住民の皆さん

私たちも地域おこし協力隊です！

かみ かわうち り さ
上川内 理紗 隊員



TOCHiTOに居住し、暮らしの魅力発信や地域と連携したイベントの企画・運営を行う。

はつ とり き ちよう
服部 帰蝶 隊員



マーメイドスイム体験などのイベントを通じ、飛島の魅力発信を行い、交流人口および関係人口の増加を図る。

お ぐり めい や
小栗 明弥 隊員



関係人口創出のためのさまざまなイベントを企画・運営。参加者との「つながり」継続を狙う。

あさ い え
浅井 ひろ恵 隊員

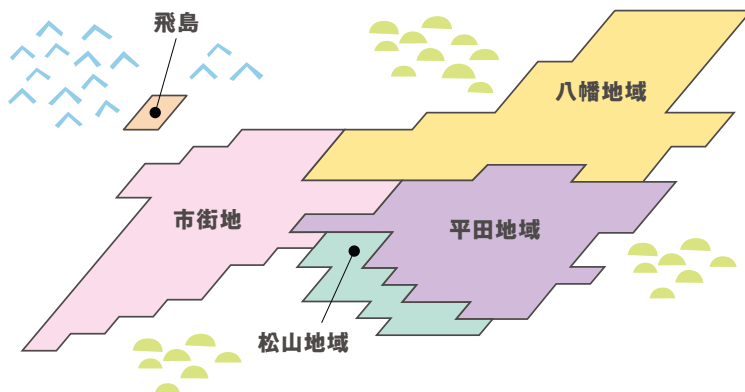


日向小学校の旧校舎を活用した「日向里かふえ」の企画・運営。活動終了後、自宅兼カフェをオープン予定。

まえ ざわ ひびき
前澤 響 隊員



飛島のウミネコ繁殖地の保護のため、島内に住む猫の保護・譲渡事業に関する広報・企画・運営などを行う。



び ぜん げん た
備前 元太 隊員



地域活動に取り組みながら八幡地域大沢地区を盛り上げるための「おもしろえごと」を地域住民と一緒に検討中。

さか もと たま み
坂本 珠実 隊員



伝統文化「酒田舞娘」を継承するため、稽古を受けながら酒田のおもてなしを勉強中。舞娘名は小蝶。

かわ かみ えい と
川上 瑛斗 隊員



出会った人のインタビュー記事とともに酒田の魅力を本市公式noteで発信。
◆本紙特集のインタビューも担当。

おお うら しず か
大浦 静佳 隊員



自身もクリエイターとして活動しながらクリエイターと本市をつなぐイベントを企画・運営。

かん だ たく や
神田 拓哉 隊員



農地継承による就農を目指し、研修を受けながら就農希望者に向けた情報発信を行う。

(令和8年7月1日現在)

各協力隊員の
紹介はこちら



▲市公式note

協力隊
担当の思い

本市では、協力隊が活動を行う際、地域住民と協力隊の目線合わせを大切にしています。地域住民と協力隊の思いや熱意が一致したときには、素晴らしい成果につながることがあります。だからこそ、協力隊が奮闘している姿を見掛けたり、その挑戦に関心をもち、応援していただけると心強いです。みなさんのおもしろいまちを作りましょう！